令和２年１月２３日
総合計画審議会参考４

総合計画策定について意見書

総合計画において押さえるべき項目
アイデンティティ確立→ビジョン→理念→中期戦略目標→戦略計画
１）ビジョン　：　個性が際立つ交際文化住宅市として高い評価を得ている
２）理念　：　芦屋市民憲章（例えば現状から探せば一）
３）中期目標
４）：　子育て世代増加率で近隣市を圧倒している

第 5 次総合計画：
今日より明日は必ず良くなる時代を終え、混迷の中で迷走する不確実な時代に遭遇している。
市民と芦屋市を絶対値で見て、最適を目指す計画策定の時代は終焉し、近隣他市と競い、相対的に優位なポジションを確保する都市間競争時代に突入ししている。
芦屋市の特性を確認し、近隣他市の特性と比し圧倒的な優位を確保する戦略を、戦略意思決定に基ずく目標設定し、目標達成のための計画策定する。

第 4 次総合計画評価では、個別細目、中位項目評価に留まらず、全体を総括評価が必要です。
先の 5 年間で、芦屋市は近隣他市と比較し、相対優位ポイントの増減を検証し、
「合成の誤謬」の視点で検証が必要です。

アンケート等には、既に相対不利なサインが読み取れる。
１）第４次総合計画初頭「住みたいまちトップ」から西宮に抜かれ、その後トップグループから芦屋が消えた。
２）次代を担う子育て世代の満足度が低下、機会があれば他市へ移住を考える傾向が伺われる。
　*高齢者は他所へ移住は望まない。高齢化が他市より高い当市の市民アンケートの読み取りに注意が必要。
　次世代を呼び込む政策なくして芦屋の未来はない。
３）従前の延長戦上の思考、手法は計画作成に不適格。
　第 5 次総合計画では、アイデンティティ、最上位の理念を確立し、それを基に相対優位を実現する差別化戦略策定が必要である。

芦屋市自治会連合会　会長　助野光男
2019.12.1.

第2回総合計画審議会/意見書

〇精道村時代から育くまれた芦屋の風土、歴史、文化を踏まえ芦屋市民憲章に謳う「高い文化、教養豊かな市民」を育む環境づくりを目指す。

・市民を育む支援を基本に「個性が際立つ」芦屋市経営戦略を練る。

・芦屋のイメージ・個性の確認、共有、明示が必須。

高い文化…まちの品格、品位

豊かな教養…市民の見識

〇第 5 次総合計画の総括評価目標の設定、達成に大胆な戦略予算を充当。

・再び阪神間で「住みたいまち第一位」に復活している。

・20 代 30 代 40 代の他市移住も視野志向に歯止めが掛かり下がっている。

・子育てに熱心な世代移入増加率で隣接市を凌駕している。

＜芦屋市の最適人口＞

・10 万人程度　*別途、20 万人超の中核市を目指す代替案もあるかも一

＜最適世代構造≫

・無制限に高級老人施設は受け入れない。
こうした施設は一代限りの人口増になっても、間接的に福祉関連費用増を招き、市民の高齢化を促進し明日のまちづくりに貢献しない。

・幼児教育に熱心な子育て世代を惹きつけ呼び込む大胆な政策を立案、戦略予算枠を確保し実施する。

＜最適所得構造等＞

・高福祉が際立つ政策で低所得層、薬物依存者更生施設、反社会団体等を誘引しないよう留意する。

・福祉政策は長期に芦屋に在住した市民を対象を基本とする。

＊留意点：個々には正当に見える細分化した個別細目の最適化が、必ずしも総合評価で全体最適化を実現していない、大目標から乖離する「合成の誤謬」を生まないよう留意すること。

芦屋市自治会連合会　会長　助野光男

2019..12.14